

別表

学校図書館の機能を活用することで身に付けたい情報活用能力(系統表)

	幼稚園・保育所・認定こども園	小学校			中学校	高等学校	学習指導要領に基づいた 体系表の主な関連項目
		低学年	中学年	高学年			
育てたい 子ども像	◆絵本や物語を楽しみ、表現することを楽しむ子ども	◆読書や調べる楽しさを知り、図書館の正しい利用の仕方を身につけた児童	◆いろいろな種類の資料を読み、課題解決に向けて、友達と関わり合いながら意欲的に学ぶ児童	◆目的に応じて、図書館の資料を適切に利用し、学び方を身につけ、課題解決に向けて主体的・協働的に学ぶ児童	◆主体的に考えて判断し、課題解決に向けて多様な資料から必要な情報を活用することを通して、主体的・協働的に学び続ける生徒	◆将来の進路を見据え、自己実現のための課題解決に向けて、的確な情報を適切に活用することを通して主体的・協働的に学び、自分の考えを表現する生徒	
課題の設定	○読み聞かせを楽しむ。	○身近なことや経験したことなどから興味・関心に応じて学習課題を決める。	○興味・関心に応じて具体的な課題を決める。	○目的を理解し、適切な学習課題を決める。	○学習課題を解決するための適切な資料や収集方法について考え、具体的な学習課題を立てる。	○中学校までの知識やスキルを基に学習課題を解決するための資料の読み解きや収集方法について検討しながら、適切な学習課題を立てる。	G A-①
情報の収集	○好きな本を見つけ絵本を楽しみながら読もうとする。  ○友達や先生の話に関心をもって聞こうとする。	○題名や表紙などに着目して必要な図書を見つける。  ○資料の中から目的に合わせて情報を選ぶ。	○目的に応じて、図書資料及びインターネット等の複数の資料の中から必要な資料を集める。  ○二つ以上の情報の中から、目的に合ったものを選ぶ。	○目的に応じて、図書資料及びインターネット等の複数の資料の中から課題解決に役立つか判断し、資料を集める。  ○複数の情報の中から、適切な方法を使って課題解決に必要なものを選ぶ。	○目的や意図に応じて多様な情報源を活用し、必要な各種資料を検索する。  ○複数の情報を適切に比較、検討、分類し、情報の持つ価値や希少性等を判断しながら情報を選択する。	○自分の設定した課題が見通しを持って解決できるか考察しながら、根拠となる多様な資料収集を的確に行う。  ○目的に応じて多岐にわたる検索方法で情報の特性を生かした様々な資料を選ぶ。  ○常に複数の情報を適切に比較、検討、分類し、情報の持つ価値や希少性等を判断しながら情報を選択する。	G A-①  G B-①
整理・分析	○図鑑を見て楽しく調べようとする。  ○友達の思いを受け止めようとする。	○簡単な絵や図、表などを用いて情報を整理する。	○情報同士のつながりを見つけたり、観点を決めた簡単な表やグラフなどや習得した「考えるための技法」を用いて整理する。	○目的に応じた表やグラフ、「考えるための技法」を適切に選択・活用し、情報を整理する。	○目的や状況に応じてデータを統計的に整理したり、「考えるための技法」を組み合わせたりして整理する。	○目的や状況に応じてデータを統計的に整理したり、「考えるための技法」を自在に活用したりして整理する。	G B-①
	○生活の中で必要な言葉を使おうとする。	○共通と相違、順序などの情報と情報との関係を捉える。	○考えと理由、全体と中心などの情報と情報との関係を捉える。	○原因と結果など、情報と情報との関係を捉える。	○複数の情報を目的に応じて比較、分類、関連づけ、多面的・多角的に分析する。  ○意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係を捉える。	○自分の考えとは異なる意見の資料も取り入れ、様々な考えや解釈のあることを理解した上で総合的に判断して活用する。  ○主張と論拠、主張とその前提や反証、個別と一般化等の情報と情報との関係を捉える。	G B-②
まとめ・表現	○考えたことを自分なりに表現しようとする。  ○自分の思ったことを相手に伝えようとする。	○気づいたことや分かったことを記録し、自分の言葉でまとめる。	○必要な情報を箇条書きで要点をまとめる。	○事実、引用、要約などと自分の考えを区別して分かりやすくまとめる。  ○構成、レイアウトを工夫したり、絵や文、グラフ、図や表などを使ったりして、効果的にまとめる。	○様々な情報を比較、分類、単純化したり、情報を追加したり、再構築したりする。  ○情報を整理して、目的や意図に応じてわかりやすく要点を押さえて自分の意見の関係性を考えてまとめる。	○目的に応じて選択した資料を論理的に読み解き、資料を多面的、多角的に分析し自分の課題に関連付けることができる。  ○選択した情報を自分の意見と比較、分析しながら構成を考え、論点をまとめる。	G B-①
	○友達や先生とのコミュニケーションを楽しむ。	○相手を意識し、順序に気をつけて、わかりやすく表現する。	○表現方法を相手に合わせて選択し相手や目的に応じ、自他の情報を組み合わせることで適切に表現する。	○目的や意図に応じて複数の表現手段を組み合わせて表現し、聞き手とのやりとりを含めて効果的に表現する。	○表現手段の特徴を理解し、目的、意図に応じて情報を統合して表現する。  ○情報発信手段としての機器の特徴を理解し、根拠を明確にして効果的に伝達する。	○表現手段の特徴を理解し、目的、受け手の状況に応じて適切で効果的な組み合わせを選択・統合し表現する。  ○情報発信手段としての機器の特徴を理解し、根拠を明確にして最も効果的な方法で伝達する。	G B-①
振り返り・改善		○教師と共に課題を決め、内容の見通しを持って課題解決できたか振り返る。  ○友達の表現のよいところを見つけて感想を伝え合う。	○具体的な課題を決め、内容の見通しを持って計画を立て、課題解決できたか振り返る。  ○友達の表現のよさについて意見を述べ合う。	○課題が適切で、見通しを持って内容や方法について学習を立て、解決することができたか振り返る。  ○学習や学習過程について友達の表現のよさを伝えたり、助言したりする。	○課題が明確なもので、課題解決に向けての内容、方法、表現が効果的であったか振り返る。  ○表現、伝達されたものの中から、課題解決のために集めた情報の有効性、必要性、信頼性を判断し話し合う。	○課題設定から調査、発表までの一連の取組みについて、客観的な自己評価を行う。  ○課題設定から調査、発表までの一連の取組みについて、客観的な相互評価を行い、自分の学びにいかす。	G C-①

学校図書館の利活用に支援を必要とする子どもについては、実態やニーズに応じて、柔軟かつ適切な指導を行う。

※「振り返り・改善」は、探究的な学習の過程ごとにも行う

※関連項目の **G** は、「学習指導要領に基づいた情報活用能力体系表」と特に関連があるもの。Aは知識及び技能、Bは思考力・判断力・表現力等、Cは学びに向かう力、人間性等を示している。A①は情報と情報技術を活用して問題の発見・解決の方法を身に付ける。B①は情報を結びつけて新たな意味を見出したり、問題発見・解決に向けて適切かつ効果的に情報を活用する。B②は様々な事象を情報と結び付けて捉える。C①は情報や情報技術を適切かつ効果的に活用して社会に参画し、発展に寄与しようとする。を示している。

※幼稚園指導要領、保育所保育指針、幼保連携型認定子ども園教育・保育要領、学習指導要領、鳥取県教育振興基本計画を基本に、全国 SLA「情報資源を活用する学びの指導体系表」、横浜市教育委員会「学校図書館教育指導計画の手引き」、京都市教育センター「学校図書館の活用を通して付けたい力系統表(小・中学校版)」、松江市学校図書館支援センター「学び方指導体系表」を参考に作成